

◎特集 1 / 平成 19 年度新体力テスト・健康実態調査 結果の概要

◎特集 2 / 学力拠点形成事業の成果

- ものづくり人材育成のための
「専門高校・地域産業連携事業」について (クラフトマン 21)
- 都留高校における N I E 推進事業
- 『山梨県史』の完成
- 県立美術館 特別展
「開館 30 周年記念 田園讃歌 近代絵画に見る自然と人間」展
- 社会教育関係団体活性化事業の紹介
- 県立博物館企画展 「木喰展 生誕 290 年 - 庶民の信仰・微笑仏 -」
- らくがき …… 白根高校 早川剛裕教諭
甲府支援学校 伊藤太一教諭
- 県立文学館平成 20 年度春の企画展
- 学校紹介 / 甲府市立北中学校・日川高校
- 総合教育センター情報 / 特別支援教育部
- 県立図書館 / 「レファレンスの道具箱 テーマ別調べ方ガイド」
- 山梨の文化財 / 県指定有形文化財 旧外川家住宅 (富士吉田市)
- 主な行事予定



特集1

平成19年度新体力テスト・健康実態調査 結果の概要

スポーツ健康課

○県教育委員会では、児童生徒の健康・体力の向上と、体育・スポーツ活動の指導上の基礎資料として活用することを目指す。平成17年度より県内全小・中・高、高等学校児童生徒を対象にした「新体力テスト健康実態調査」を実施しています。今年度より調査結果の分析・考察を山梨大学（保健体育講座・生涯学習講座スポーツ健康科学コース）に委託いたしました。このたび、調査結果がまとまりましたので、その概要についてお知らせいたします。

1 調査実施状況 (表1)

2 調査結果の概要

今年度実施した「新体力テスト・健康実態調査」の結果から、本県児童生徒の体力・運動能力の特徴や生活習慣の傾向など、おおむね次のような実態が明らかになりました。

表1. 調査実施状況

校種	標本数	実施者数	実施率
小学校	52,657	49,692	98.1%
中学校	25,879	24,887	96.2%
高等学校（全日制）	20,838	20,580	98.8%
高等学校（定時制）	880	641	72.8%
合計	98,254	95,800	97.5%

(1) 新体力テスト、全国との比較
①合計点及び各種目における全国平均との比較
本県の結果と、全国（平成18年度）の結果を比較すると、総合的な体力を見る合計点では平成17・18年度の調査同様、男女とも全ての年齢で全国を下回り、本県児童生徒の体力は全国と比較しやや低い状況にあることが分かりました。また、中・高等学校段階において加齢とともに全国との差が広がる傾向も見られました。（図1）
測定項目別にみると、小学校において、握力は男女とも全国を上回り、長座体前屈・上体起こしについては、長

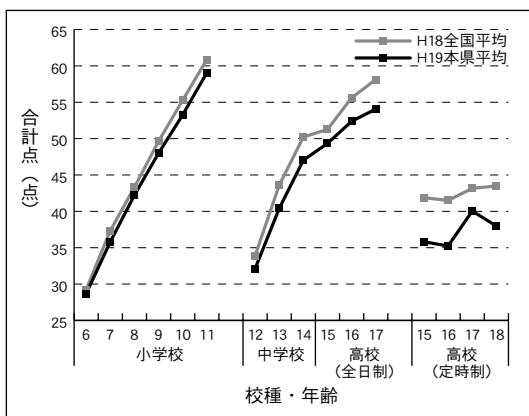


図1. 合計点の本県（H18・H19）と全国（H18）との比較（男子）

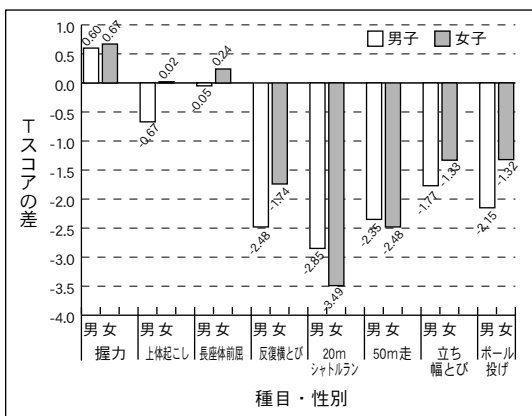


図2. 測定項目別にみた本県と全国のTスコアの差（小学校）

全国レベルにありましたが、しかし他の5項目においては、全国との差が大きい傾向が見られました。これらから、筋力・柔軟性といった体力要素は高いが、走・跳・投など技術や身体操作性が求められる身体能力は劣っているという本県児童生徒の体力・運動能力の特徴が見られました。（図2）

(2) 新体力テストの3年間の推移
全県実施を開始した17年度からの伸びについて合計点で見ると、6・13年度を除いた学年において平成18・19年度と数値の上昇が見られました。（図3）

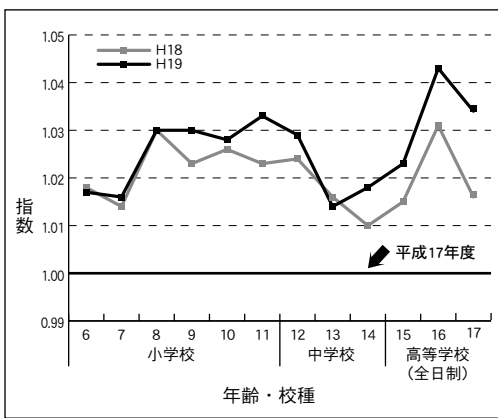


図3. H17の合計点の値を1としたときのH18・19の値（男子）

また、総合評価の分布について見ると、ほとんどの学年において平成17年度から、優れているA・B段階の児童生徒の割合が増加し、劣っているD・E段階の児童生徒の割合が減少しました。（図4）これらから、ここ3年間にわたり全体的に改善されていることがわかりました。

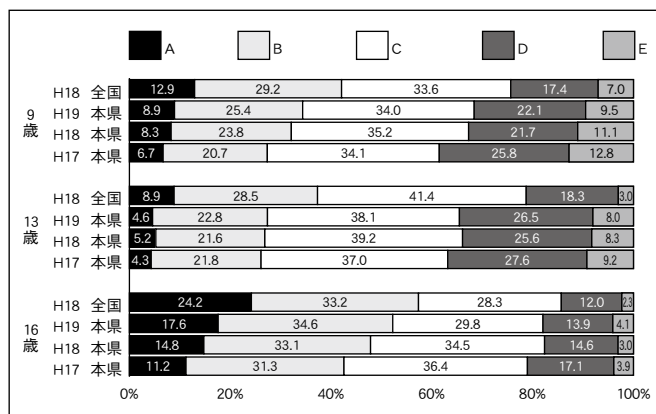


図4. 本県（H17～19）と全国（H18）の総合評価の分布（男子）

測定項目別に見ると、平成17年度において記録が大きくなったラン・反復横跳びと、20mシャトルランにおいて記録が小さくなった項目や、握力・上体起こしなどの体力系項目が伸びたのに対し、ここでも走・跳・投といった操作性の身体能力の伸びが鈍い傾向が見られました。

(3) 過去からの共通種目における記録の推移
図5は、昭和40年代からの共通種目であるボール投げ（小学校：ソフトボール投げ、中・高等学校：ハンドボール投げ）の記録の推移を示したものです。各年齢段階とともに、昭和50年代中ごろをピークに長期的な低下傾向が続い

てきました。平成11・14年ごろから低下が鈍化し、ここ数年横ばい傾向となつています。50m走・握力においても同様な傾向が見られています。ただ、依然低下している年齢もあるため、現時点では体力低下に歯止めがかかったと言える状況にはありません。また、長期的にはまだ低い水準にあり、体力の向上に向けて一層の取組を推進する必要があります。

(4) 健康実態調査の各項目の平成17年度との比較

表2は健康実態調査の各質問項目の健康行動について平成17年度と平成19年度の改善を比較したものです。(5%以上の改善を○、5%以上の悪化を×、それ以外を空欄とした。中・高等学校の睡眠時間については、選択肢が平成17年度と19年度で異なるため、比較はできない。)

全体的には約30%の項目で改善傾向が見られ、特に11歳・12歳・17歳をはじめ、中・高等学校において改善率の高い項目が見られました。項目としてはスナック菓子等の摂取やTV視聴時

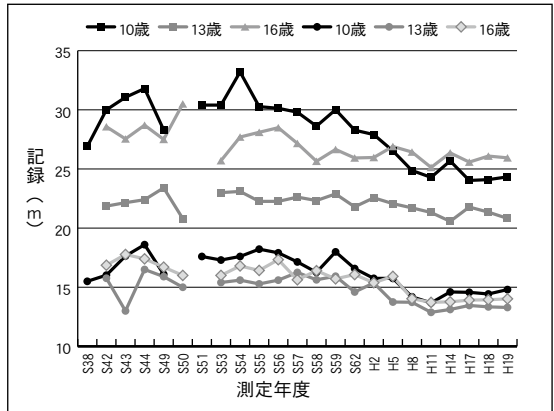


図5. ボール投げにおける過去からの記録の推移

間などで良い傾向が見られました。一方、小学校低学年においては健康行動をとる児童の割合が減少している項目が多く見られました。

(5) 健康実態調査、健康三原則の状況

① 運動頻度の状況

「ほとんど毎日」運動する児童生徒の割合は、男女とも13歳がピークとなり、「運動をほとんどしない」児童生徒の割合は10歳を境に増加する傾向が見られました。特に10〜11歳にかけて一時的に運動をしなくなる傾向が見られるとともに、女子の方が早期に運動をしなくなる傾向が見られました。

② 朝食の摂取状況

朝食の摂取状況については昨年同様、加齢とともに「毎日食べる」児童生徒が減少し、「毎日食べない」児童生徒の割合が増加する傾向が見られました。特に中・高等学校では4〜5人1朝食を食べる習慣がないことが明らかにになりました。

表2. 健康実態調査の各質問項目のH17とH19の結果比較

設問	校種	小学校										中学校		高校(定時制)				
		6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳					
男子	運動の頻度		×				○	○									○	
	運動時間	×	×				○	○									○	
	朝食摂取							○	○								○	
	スナック菓子等の摂取	×	×	×		×	○	○		○					○	○	○	
	家庭料理																	○
	睡眠時間																	○
女子	テレビ視聴時間	×	×	×	○		○	○							○	○	○	
	運動の頻度	×	×	×			○	×						×			○	
	運動時間	×	×				○	○					○	×	×		○	
	朝食摂取							○	○	○							○	
	スナック菓子等の摂取	×	×				○	○		○	○				○	○	○	
	家庭料理																	○
睡眠時間						○											○	
テレビ視聴時間	×	×				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

③ 睡眠時間の状況

睡眠時間については小学校と中・高等学校との生活スタイルが、定期試験や受験等の関係から大きく異なるため、睡眠時間は短くなる傾向が顕著でした。

④ 生活習慣と体力との関係

運動をよく実践し、朝食をしつかり摂る子の体力は高い傾向にありましたが、睡眠時間と体力については、むしろ睡眠時間の長い生徒の数値が低い傾向が見られました。これは睡眠時間が少なく、睡眠の質や朝の過ごし方が影響する物と予想されます。体力の向上には運動習慣と合わせて「早起き」「朝食」といった規則正しい生活習慣が改めて重要であることが分かりました。

3 調査結果からみた今後の課題等

全ての児童生徒を対象とした調査から3年間で、全体的には改善傾向は見られましたが、基礎的な体力要素と比較し走・跳・投といった操作系の身体能力に課題が見られました。これは、単に運動不足だけでなく、技術等身体操作性を要する運動経験の不足が大きな要因として考えられます。

そのため、各学校においては、「できる」楽しさを保障する体育の授業を充実することほもとより、一校一実践運動などにおいて、遊びや運動の質に重点をおき、身体操作性・身のこなしを高める運動を意図的に行わせる取組が必要です。また、小学校低学年から運動習慣の差による体力の二極化が見られることから、運動をしなない児童生徒への積極的な働きかけが必要で「有能感」を高くし、積極的に運動に親しむ態度を培っていくことが大切です。

また、規則正しい生活習慣が体力の向上に大きく影響していることから、小学校低学年からの運動習慣を含めた食事・睡眠といった健康的な生活習慣の確立に向けた継続的な取組が必要で、特に、小学校低学年の生活習慣に課題が見られたことは、保護者等の意

識や家庭生活の影響をより大きく受けていることが予想できるため、今後は、学校のみならず保護者に対して積極的な働きかけが一層求められます。

4 今後の取組について

「新体力テスト・健康実態調査報告書」を作成し、各学校等に配付するとともに、「総合教育センター」体育・健康教育のページにて詳細データとともに掲載します。

・運動をしない、できない児童への運動機会の提供を目的とする「スポーツ大好きキッズ育成事業」において、小学校における放課後の「元気ツズクラ」(仮称)の普及に向けモデル校の実践を参考にした「ハンドブック」を配付し、啓発を図っていきます。

・今年度実施した「元気アップ親子セミナー」(生涯スポーツ担当)を引き続き実施し、保護者への啓発を図っていきます。

・今年度配付した「食育推進のための指導の手引き」を活用し、学校・家庭・地域が連携した児童生徒の食習慣改善に向けた取組を進めていきます。

○おわりに

今年度の調査結果から、各学校の「一校一実践運動」等の取組より、「一定の結果が見られていきます。今後、一層成果を上げていくには、各学校において、今回の調査結果等から課題を明確し、運動の質に目を向けた意図的な実践に改善していくこと、そして、全ての児童生徒が対象である「体育・保健体育」の授業において児童生徒に学習内容が確実に身に付けさせていくことがポイントです。あわせて保護者等への積極的な働きかけなど、学校教育全体を通じた健康的な生活習慣の確立に向けた日常実践を促す取組も不可欠です。

これから、山梨の子どもたちの元気を取り戻すために、各学校における適切かつ積極的な取組をお願いいたします。

学力拠点形成事業の成果

県教育委員会では、平成十七年度より三か年計画で本事業に取り組んできました。今回は事業のまとめとして県下十二の指定校の研究成果を紹介します。

■甲府市立石田小学校

・研究テーマ「確かな学力を育てる学習活動の研究
く国語力を向上させ、伝え合う力を身につけさせることを通して」

国語力を向上させ伝え合う力を身につけさせることを通して、確かな学力を育てるために、次の三点に取り組みました。①子どもたちの実態や学級集団における状況を把握し、伝え合う力を身につけさせる社会性を育てる。②国語力を身につけさせ、伝え合う場を設定することで、学ぶ楽しさと論理的・創造的に考え解決する力を養う。③家庭と連携を図り、学びを成立させる習慣・態度・学習のルールやリズムについて共通認識をもつとともに、個に応じた指導の充実を図る。

公開研究会の折には、全クラスが授業を公開するとともに、ワークショップ型の授業研究会をとおして、教師が学び合う機会となりました。

■甲府市立湯田小学校

・研究テーマ「自ら学ぶ児童の育成 く学び合う学級づくりを通して」

本校では、学力向上には児童の学び合いが重要であると考えました。学び合う学級づくりのために、楽しい学校生活のためのアンケート（QU）検査を

実施し、結果を生かしました。

また、児童の学習履歴、自己評価、学習前後の変化などがわかる一枚ポートフォリオを活用し、指導と評価の一体化を実践しています。一枚ポートフォリオは、育てたい資質能力を明確にした授業のグラウンドデザインでもあります。

さらに、大学生の教育ボランティアの活用や、授業改善のためにワークショップ型研究会の実践も行いました。

■中央市立田富北小学校

・研究テーマ「生き生きと学ぶ子どもを育てる教育活動の展開 くかわり合って学ぶ活動（算数科）を通して」

教科を算数科に絞り、次の三つの活動を授業に取り入れ、思考力を育てることを目標に取り組みしました。①もの（教材の本質、具体物等の操作・図や式等でかくこと）とのかかわり ②人（友達や教師）とのかかわり合う活動 ③子どもが学ぶ意味を感じ教師が指導に活かす評価として一枚ポートフォリオ・学習感想の記述です。また、学びを支える学習の環境（実態把握、学級集団づくり、学習基盤、保護者との連携）にも努めました。

■南アルプス市立甲西中学校

・研究テーマ「基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身につける指導の工夫 く生徒の実態に応じた多面的な指導・支援体制の充実を通して」

本校では平成十六年度までの研究を基に、平成

十七年度からの本指定を受け、学校教育目標の具現化に向けて取組を行ってきました。確かな学力を生徒の立場に立って考え、一点からでなく、多面的なアプローチを行うことで学力の向上を目指しました。「授業改善および質の向上」「個への指導・支援体制の充実」「家庭生活の実態把握と学習習慣の確立」の三つの柱を中心に研究を行い、各柱の内容をより充実させることで多様な生徒に対応できるように取り組んできました。

■笛吹市立富士見小学校

・研究テーマ「確かな学力を育む学習活動の創造
く算数科における、基礎・基本の定着を図る指導方法と学び合いの場の工夫を通して」

本校では次の三つの重点について取り組んできました。①TT方式・少人数指導等学習形態の工夫及び、学ぶ楽しさを味わい主体的に取り組む学習活動により、基礎・基本の確実な定着を図る。②思考を深め課題を解決する学びの中で、互いの考えを交流し高め合う学び合いの場の工夫を行う。③学びを受け止め、学び合う関わりを支える評価活動を進める。書く活動を取り入れ、数学的な思考力、変容をとらえる手だてとする。

■山梨市立山梨南中学校

・研究テーマ「真理を求め、自ら考え、正しく判断し、進んで学習する生徒の育成 く探求心をはぐくむ学習活動の推進」

本校では「思考力・判断力・表現力・問題解決的

な資質や能力の育成」と「指導と評価の一体化を図り、フィードバックを充実させることによる基礎・基本の定着」を柱に「課題解決的な学習の推進」「生活との関係で考えたり、表現したりする授業の工夫」「発表や話し合いなどにより、学びの質を高める指導の工夫」「生徒の発言やつまづきの分析をもとにした適切な支援」「評価内容及び評価方法の改善」に取り組みました。

■ 藤崎市立藤崎小学校

・研究テーマ「生き生きと自ら学ぶ子どもの育成」
国語科では、自分の考えを正しく書くことのできる子どもをめざし、「書く力」を高める指導法の研究を行いました。国語科の書く学習において短作文の書く力を高めるために言語事項に関する基礎的技能の内容を踏まえた指導を行いました。また、全学級で日直作文等にも取り組みました。算数科では、課題解決に見通しをもち数学的な考え方ができる子どもを目指し研究を行いました。算数的活動の取り入れや問題解決型の学習過程の工夫を通して、考え方の育成・学び方の向上を図りました。

■ 北杜市立長坂中学校

・研究テーマ「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成」
本校では、「主体的に学ぶ生徒」を育むために『学び合う体験』に焦点を当てた授業を展開してきました。①「つかむ」反復練習等で集中力を鍛えながら、学習への見通しをもちます。②「関わる・表現する」男女混合3人班を使い、表現しあって学習を深めます。③「ふり返る」学習後のふり返りを継続的に書き、次の課題につなげます。

各授業で共通したひとつの流れを作ることができ、生徒の関心・意欲の高まりが見られました。ま

た「学び合う」ことで生徒相互の相乗効果が上げられたと感じています。

■ 市川三郷町立市川小学校

・研究テーマ「自ら『見つめ、調べ、まとめ、表現する』子どもたちの育成を目指して」

算数科で評価と指導の一体化を図った授業の創造に取り組みました。評価記録から確かな見取りをし、指導と評価と支援の計画をもとに、問題解決的学習を通して確かな学力の向上を目指しました。教材教具の工夫や算数的活動の導入が意欲や思考力の向上に、関わり合いの工夫が話し聴く力の向上や学び合う楽しさに、書く活動の充実が思考力・表現力の向上につながりました。また、学習感想等の自己評価が、児童にとって課題の意識化に、教師にとって児童の思考や理解度の把握や指導の振り返りにつながりました。

■ 市川三郷町立市川中学校

・研究テーマ「生き生きと意欲的に学び合う生徒の育成」

生徒一人一人の学習意欲を高めるため、生徒の実態、学習スキルの育成、支援システムの構築を各ブロックごとに研究し、全体で学び方や学ぶ習慣の確立に取り組みました。また、IT授業等によりきめ細かな指導を行うとともに、小集団学習を取り入れ、生徒同士が積極的に学び合う授業づくりを各教科ごとに研究・実践しました。

その結果、生徒・教師の授業に対する意識・取組が向上し、本校の教育活動全般も活性化しました。

■ 富士河口湖町立船津小学校

・研究テーマ「心豊かに生き生きと学ぶ子どもの育成」

学ぶ意欲の向上を図るために、子どもの実態を十分に理解し、家庭と連携して子どもの規則正しい生活や学習習慣を身につけることを基盤としながら、分かる・できる・楽しい授業の創造を目指してきました。算数科での問題解決学習における「授業力の向上」を図るとともに、個に応じた指導のための「支援」の在り方に着目し、実践的な研究を進め、確かな学力の向上に努めてきました。

■ 大月市立大月東中学校

・研究テーマ「豊かな学びから「確かな学力」の向上をめざして」

本校では、生徒がわかる喜びを味わい、学ぶ楽しさを感じ、学びの意義を実感しながら学習する「豊かな学び」を実現していくために、教科指導においては、視覚資料の提示や生活との関わりの中から課題を投げかけるなどの導入の工夫や、作業や実験、意見交換などの学習形態を工夫しました。また、学習指導においても、学習に対する構えを育成するために「学習の手引き」の活用や、個に応じた指導と既習事項の定着を図り学習の意欲を喚起させていくために「学びの時間」等の取組を行いました。

今年度公開された各研究指定校の実践を紹介しました。紙幅がなく十分に紹介できませんでしたが、数多くの具体的かつ効果的な手だてが開発されたと考えています。これらの成果がそれぞれの地域で共有され、子どもたちの学力向上につながると思いま

ものづくり人材育成のための 「専門高校・地域産業連携事業」について（クラフトマン21）

— 高校教育課 —

【概要】

産業構造の変化とともに、団塊の世代の大量退職や技術・技能の継承とものづくりに興味を持った人材の育成が重要視されています。

このような中、平成十九年度文部科学省の「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」の指定を受け、県内の工業高校（**甲府工業高校・谷村工業高校**）三校で事業が進められています。

この事業は、工業高校と地元企業が連携して、地域に貢献できる人材育成のシステムづくりをめざすとともに、学校・行政・企業の連携の在り方を検討し、工業高校と地域産業の活性化を目指すねらいがあります。実施には、教育委員会とやまなし産業支援機構が主体となり、人材育成連携推進委員会を中心に活動を進めています。活動内容には、概要図に示すとおり「企業実習の実施」「学校で実践的指導」など四つの分野があります。

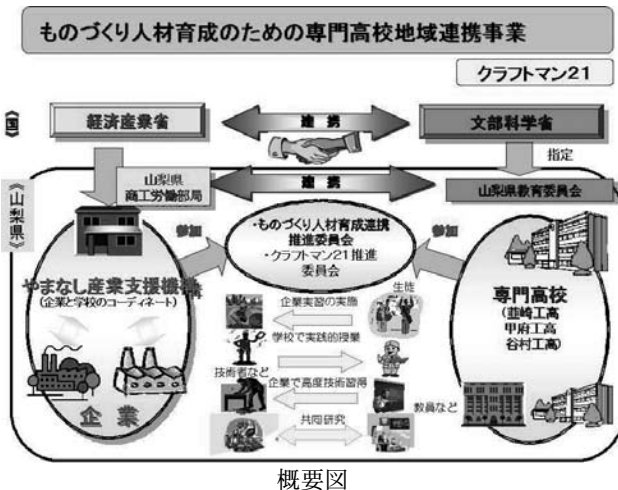
【各校の取組み】

○**甲府工業高校**

インターンシップの実績のある地元企業に依頼して、二年生二十三名が七社で四日間の企業実習を実施しました。機械加工（旋盤/MC加工）・溶接・材料計測・CADなど学校では体験のできない実習内容で大変参考となりました。一年生は、電子機械科とシステム工学科の生徒七十二名が企業見学を五日間に分けて行い、また、企業の技術者による工業管理技術やシステム技術に関する講義を実施しました。

○**谷村工業高校**

生徒の企業実習は、連携企業八社との調整を図りながら、実習テーマを編成し、精密機器、光学・OA機器、半導体製造装置などの製造技術である機械加工、金属熱処理、CAD製図実習などを実践しま



した。また、企業の高度熟練技術者を三級技能検定実技講習と二足歩行ロボット製作の指導者として招き、機械加工や組み立てなどの実技講習会を実施しました。企業との共同研究では、トラクターや小型パワーショベルの自走又は遠隔操作走行システムなどの研究に取り組んでいます。

○**谷村工業高校**

一年生全員のインターンシップを発展させる形で一年生十一名が製造業八社へ終日三日間の企業実習を実施しました。ハイテク工作機械や高度な加工技術に触れることで、ものづくりに対する意識が高まっています。また、企業の経営者や技術者を講師に招き、機械設計に関する講義を実施し、二年生のべ五十八名が受講し、教科書からは学ぶことができ

ない熱気ある内容に、真剣に話を聞いていました。

○三校の共通履修として、二足歩行ロボットの製作が三年生を中心に実施され、企業から講師を招き指導をしていただきました。アッセンブリ組立技術につながる正確な作業が要求されますが、生徒が組立説明書を注意深く読みながらも楽しそうに取り組む姿が見られました。

○**教員の高度技術習得**

教員を対象に高度熟練技能者の指導により、溶接、旋盤加工、フライス盤加工技術講習会が開催されました。安全作業について、実際の体験談をもとに、設備、防具、そして服装などの扱いや着こなしの要領などについて指導を受けた後、特殊技能を要するステンレス溶接等の技術講習を受けました。今後の実習指導に大いに役立つ内容でした。

【School】

本事業の取り組みは、四つの分野ともスタートしたばかりです。企業実習や学校での指導など実施回数は少ないものですが、三年間の取り組みにより、工業高校と地元企業との連携を進め、基礎技術力を身に付けた、ものづくり人材育成のためのシステムづくりを目指します。また、他の学科や専門高校にも展開できるような取り組みを推進する予定です。



MC加工品の面取り



TIG溶接実習

都留高校におけるNIE推進事業

— 都留高等学校 —

都留高校は、平成十八・十九年度に、日本新聞教育文化財団から、NIE (Newspaper In Education) の実践校に認定されています。NIEとは学校で新聞を教材にした教育活動を進める活動です。本校では、数紙の新聞を比較しながら読むことを通じて、論理的な考え方や思考力を養うように指導を進めています。

◇総合学習におけるNIE学習

1年次の総合学習で、新聞記事を使ったNIE学習に取り組んでいます。導入として、山梨日日新聞の編集者を講師にお招きし、新聞記事の作り方と読み方について講演をしていただきました。次に、各自が進路に関わる記事を選び、班ごとにテーマを設定して、テーマに関する他の記事やインターネット・書籍・事典などを調べました。各テーマについてまとめた内容を班ごとにクラスで発表して、その後各クラスの代表が1年生全体で発表する予定です。

◇新聞係を中心とした新聞閲覧の取り組み

日本新聞教育文化財団から提供された六紙の新聞は毎日、生徒が比較しながら閲覧できるようにしています。1・2年各クラスの新聞係の生徒は注目記事を切り抜き、教室に掲示しています。また、NIEコーナーを職員室前に設置し、本校生徒の活躍が掲載された記事を掲示しています。

◇記事に対する意見文の新聞投稿の取り組み

長期休業の課題の一つとして、新聞の社説などの記事を読みその記事に対する意見文を書くように指導しました。優れた意見文を選び、新聞の投書欄に送りました。二月から十二月までの間に、山梨日日新聞の「私も言いたい・十代の意見」の欄に、約四十名の都留高校の生徒の意見文が掲載されました。掲載された意見文を各クラスで取り上げて、感想や意見を出し合いました。



取り組みの様子

◇各教科での取り組み

***国語科** 国語力向上を目指して、2年生の現代文の授業では、新聞記事を通して、情報を取捨選択する力や各自の意見を発信する表現力を養う授業に取り組みました。公開研究授業では、新聞5紙の一面記事を読み比べて比較しました。

***地歴・公民科** 1年生の世界史Aの授業で、学習内容と関連づけて、世界の各地域に関する新聞記事を取り上げて、生徒に紹介しました。また、歴史や社会に関連する集会・イベントの記事や記念日に関連する新聞記事を授業の最初に紹介することによって、生徒に現在起こっている出来事に対する関心を持たせました。

***理科** 生物の授業の課題として、生物に関する新聞記事を切り抜いてレポート用紙に貼り、要約と感想を書く課題を出しました。

***芸術科** 書道の授業で、年末に発表された『今年の世相を表す漢字』の記事を読んで、その漢字を半紙に表現しました。

***家庭科** 「発達と保育」の授業で、過去半年の新聞記事から、子どもの保育に関連する記事を抜き出し、グループごとに調べて発表しました。

***英語科** 「科学英語」の授業で、新聞に掲載された最新の科学記事を読むことと、専門用語の入った英字新聞の記事を読む活動を行いました。以上の新聞を利用した教育活動は、来年度以降も続けていく予定です。

『山梨県史』の完成

— 山梨県史編さん室 —

原始から現代に至る山梨県の歴史を、全二十八卷三十一冊にまとめた『山梨県史』編さん事業が、この度完了しました。

『山梨県史』の編さん事業は、山梨県の歴史を詳細に明らかにすることを目的とし、平成二年度に事業がスタートしました。対象とする時代は、旧石器時代（本県では約三万五〇〇〇年前に、旧石器時代人の存在が確認できる）から、平成二年の天野建知事誕生までです。県史編さん事業は、県民はもとより、県内外の歴史研究者や、愛好家を始めとする多くの人々の悲願でもありました。それは、本県で修史事業が行われたのは、江戸時代の文化四年（一八〇七）に始まり、同十一年（一八一四）に完成した『甲斐国志』のみで、それ以後はまったく実施されずにいたためです。

ですが、その後、山梨県史編さんの試みがまったくなされなかったわけではありません。実は、大正時代、甲州財閥の一つである若尾財閥の援助のもと、山梨県誌編さん事業が行われたことがありました（俗に「若尾県誌」とも呼称されます）。当時の県内の歴史学者の総力を結集して始まった事業は、県内はもちろん、県外にも史

料調査に赴くなど、現在の事業にも劣らぬ精力的なものでした。そして、着々と進められた史料収集と並行して、県史の執筆も行われ、大正十二年（一九二三）には、最初の刊行巻の原稿が完成し、印刷のために横浜に送られたのです。しかし、不幸にも関東大震災が発生し、県史の原稿は横浜を焼き尽くした炎の中に消えたのでした。さらに、当時の日本は、「恐慌から恐慌へよろめく」といわれた経済不況に苦しんでおり、震災に続いて発生した金融恐慌、昭和恐慌などのため、県誌編さん事業を後援していた若尾財閥も崩壊してしまつたのです。こうして、

支えを失つた山梨県誌編さん事業は、遂に中止を余儀なくされ、「若尾県誌」は「幻の県誌編さん事業」と呼ばれるようになりまし。当時の県誌編さん事業の成果の一部は、県立博物館所蔵若尾資料に収められている史料から窺うことができます。

こうした不幸な経緯もあつて、県史編さん事業の完成は、多くの人々の悲願となつたのでした。幸いなことに、平成元年度に「県史編さん準備委員会」が設置されて、素案づくりがなされ、翌年四月に「山梨県史編さん委員会」が発足し、その下で県史編さん担当が

実務を行うこととなつたのです。県史編さん事業は、原始、古代、中世、近世、近現代、民俗、文化財の七部会が設置され、県内外の専門家を委員に委嘱し、さらに県内市町村の歴史や史料所在の情報を知るために、地域の方々の中から調査協力員を委嘱し、情報の収集に努めました。こうして、多くの皆様の御協力のもとに、数多くの史料の調査と収集（おもに写真撮影）を実施することができ、これまで明らかにすることができたのです。

県史編さん事業による史料調査の足跡は、県内のすべての市町村のほか、県外各地の大学、博物館、資料館、個人宅などに及びました。事業完結の平成十九年度末までに調査、収集した史料は、総計で約五〇万点にも達しました。それほど精力的な史料調査と収集を実施したのは、県史の記述の正確さを期すために他なりません。ですが、紙幅の関係もあつて、県史の資料編に掲載することができたのは、わずかに約一万五〇〇〇点余に過ぎません。それでも、通史編の記述の中に、可能な限りの新知見を盛り込んであります。また、本県の歴史といえ、武田氏が著名ですが、武田氏の史料もほぼ網羅

され、今後、県史を活用した研究の進展が期待されています。今後は、県史の資料編、資料叢書に収められた史料や、通史編、概説編、調査報告書、県史研究などの記述はもとより、県立博物館に移管した史料群などが、県民各位が郷土山梨の歴史を読み解くよすがとなり、さらに学校教育、生涯学習、歴史研究の進展に貢献できることを願つてやみません。



完成した山梨県史

県立美術館 特別展

「開館30周年記念 田園讃歌 近代絵画に見る自然と人間」展

— 県立美術館 —

県立美術館が所蔵しているミレーの《落ち穂拾い、夏》という作品があります。この作品に描かれたものに注目してみましょう。

収穫のとき、フランスでは刈った穀物を全て取り入れてしまうのではなく、ある一定量を地面に残しておく習慣がありました。そのようにして地面に残された穂が「落ち穂」です。落ち穂は畑を持たない貧しい人びとのために残されるものでした。手前の3人の女性たちは、落ち穂を拾って日々を暮らす貧しい農民です。腰をかがめて穂を拾うという過酷な作業に従事しているものの、彼女たちは堂々とした姿をしています。

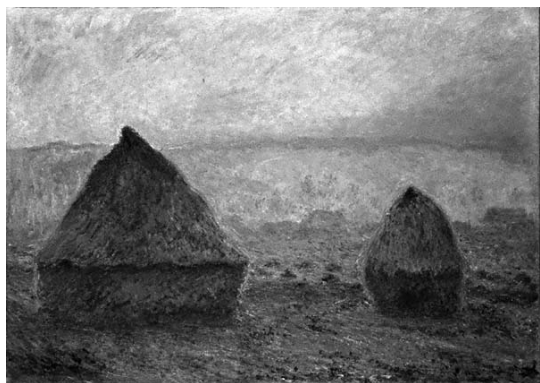
日本では「収穫の秋」といいますが、一般的にフランスでは小麦などの穀物の収穫は7月から8月にかけておこなわれます。穀物は刈り取られて干されたのちに、積み上げられます。《落ち穂拾い、夏》の背景に見えるのが、収穫された穀物を積み上げたもの。荷車に載せられた穀物を人びとが積み上げていく様子が見えます。人間の大きさと比べると、この山がどれだけ大きいか分かるでしょう。しばしば「積みわら」と呼ばれますが、実際は脱穀前の麦を注意深く積み上げたもので、直径4メートルから8メートルに及びました。このように大きな収穫物の山は、この土地の豊かさをあらわしています。



ジャン＝フランソワ・ミレー
《落ち穂拾い、夏》
1853年 山梨県立美術館

19世紀フランスで活躍したミレーやバルビゾン派の画家は、田園風景や農民の姿を描きました。絵画にあらわされた農村は理想郷とみなされ、収穫された穀物や干し草を積み上げた大きな山は大地の恵みとされました。この画題は、ジュリアン・デュプレやレオン・レルミットらサロンで活躍した画家たち、さらにはクロード・モネやカミーユ・ピサロといった印象派の画家たちにも継承されました。印象派を代表する画家モネは、ミレーの《落ち穂拾い、夏》で背景に追いやられていた穀物の山を主役に据えました。

「田園讃歌」展では、積みわらや農民の姿に注目します。本展では、19世紀フランス絵画や近代日本絵画の名品約150点で、「近代絵画に見る自然と人間」を多角的に紹介します。



クロード・モネ
《ジヴェルニーの積みわら、夕日》
1888-89年 埼玉県立近代美術館

会期：4月19日(土)～6月1日(日)
休館日：4月21、28、5月7、12、19、26日
会場：特別展示室
開館時間：午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入場料：一般 一〇〇〇(八四〇)円
大・高生 五〇〇(四二〇)円
中・小生 二六〇(二一〇)円
()内は20名以上の団体、前売料金、
宿泊者割引料金
小・中・高校・特別支援学校生は土曜日
無料
県内65歳以上の高齢者(健康保険証等持
参)は無料
障害者手帳をご持参の方は、ご本人と介
護を行う方1名が無料

社会教育関係団体活性化事業の紹介

— 社会教育課 —

社会教育課では、山梨県内における社会教育関係団体の活性化を図るために、社会教育関係団体活性化事業を実施しています。この事業は社会教育振興フォーラム、体験交流事業、社会教育関係団体指導者養成事業で成り立っています。

今回はそれぞれの事業を紹介します。

□ 社会教育振興フォーラム

社会教育関係団体の関係者が一堂に集い、討論情報交換を行い、県内の社会教育関係団体の意識の高揚を図ることを目的に実施しています。

本年度は十一月四日、男女共同参画推進センターで元韮崎高校サッカー部監督の横森巧氏を講師に



招いて「スポーツを通しての人間育成と社会貢献」をテーマに御講演をいただきました。また体験コーナーは山梨県女性団体協議会の「食育かるた」、山梨県連合婦人会の「キラキラ宝ばこ」を実施し、八十七名の子どもたちが参加しました。

セレモニーでは、双葉ジュニアコーラス四十七名の小学生による合唱で会場いつぱいに爽やかな歌声が響き渡りました。

□ 体験交流事業

社会教育関係団体の人材、地域の自然、施設を活用し、体験活動を実施し、地域に根ざした社会教育の振興を図ることを目的として実施されています。具体的には自然体験、農業体験、環境学習等やボランティア活動が主なものです。

本年度は、県内全域で十四事業が行われ延べ四百人以上の参加者がありました。

八月十六日に本栖湖で行われた親子カヌー体験教室では猛暑の中、二十四人が参加し波静かな湖面に親子で協力し、カヌーを漕艇場から運び出し、初歩的な動作を子どもグループワーク研究会のスタッフから教わりました。



バランスを崩し転落する親子や沖に流されるものもありながら、一日の教室を通して、自然の中でカヌーの楽しさを満喫しました。

楽しく充実した一日となり、豊かな自然の中で親子の絆の深まりを感じた体験事業となりました。

□ 社会教育関係団体指導者養成研修会



社会教育関係団体指導者の資質向上を図るため三回の研修会を実施しています。ここでは山梨学院生涯学習センターを会場に、二月二日開催された生涯学習フォーラムを紹介いたします。

テーマ

「これからの社会を担う『団塊世代』」
基調講演「共に育てる学びのタネ」
講師 立田慶裕 氏

(国立教育政策研究所 総括研究官)

パネルディスカッション

「世代と世代をどうつなぐか」

パネリスト

平賀正友 (FM甲府パーソナリティ)

丸山嶺男 (笛吹市立一宮西小学校長)

松田志穂 (Two Step代表)

指定討論者

丸山正次 (山梨学院大学教授)

コーディネーター

永井健夫 (山梨学院生涯学習センター長)

参加者八十七名により、活発なディスカッションが行われました。

木喰展 生誕二九〇年 — 庶民の信仰・微笑仏 —

— 県立博物館 —

甲斐国丸畑出身の木食僧

「木喰」という名前

木喰は、享保三年（一七一八）、甲斐国丸畑に生まれました。現在の南巨摩郡身延町古閑にあり、緑に囲まれたその地は、今でも木喰が暮らした当時を彷彿とさせる雰囲気留着めています。

十四歳の頃故郷を旅立った少年木喰は、四十五歳のとき常陸国（現在の茨城県）羅漢寺の観海上人の弟子となり、木食戒をうけます。木食戒とは、五穀と塩を断ち、火を使った調理をせず、草の根や木の実などを主な食料とするという大変厳しい修行を行うものでした。そして、五十六歳のとき

全国を巡礼する廻国修行を志し、仏像を彫り始めたのは六十歳を過ぎてからのことでした。九十三歳で亡くなるまで、実に千体以上の仏を刻み出し、現在残されている数は、六百体を超えます。

木喰は生涯に「木食行道」「木食（喰）五行菩薩」「木喰明満仙人」と、三度名乗りを変えています。修行の旅を続ける中で、時々宗教的自覚の高まりが、それぞれの時期に相応しい名を木喰に名乗らせたのでしよう。木食僧はその他にもおります

が、「喰」の字を用いたのは、唯一人。そのため、「木喰」と言う言葉は、彼の代名詞のように使われるようになりました。

故郷の木喰仏

木喰は、廻国修行を達成し故郷に戻った折人々の強い願いをうけ、四国堂を建立します。四国霊場八十八ヶ所の本尊を安置し、いながらにして霊場巡礼の功德を得られるというそれは、木喰生涯

における最大の傑作の一つと言われます。今、納められていた仏像は各地に散逸してしまいました。が、堂は故郷の人々の尽力によって再建され、往時の様子を偲ぶことができます。現在山梨に残る木喰ゆかりの品々は、丸畑の地等に残された数体の四国堂仏と、作品中唯一の日蓮像、そして、現在確認される中で生涯最後の大作、三メートルを超える巨大な阿弥陀如来図など、特徴的なものばかりです。

木喰が作った仏は、独特の微笑をたたえることから「微笑仏」と呼ばれ、今も人々を魅了しつづけています。二〇〇八年は、木喰の生誕二九〇年にあたります。この春全国各地から約170点の資料が県立博物館に集まります。今なお仏たちに宿る木喰の思いを、この機会にぜひ感じ取ってみてください。



弘法大師（四国堂仏 県立博物館）



日蓮上人（金龍寺 身延町）

《開催期間》

平成二十年四月五日（土）～五月六日（火）

《観覧料》

一般 一〇〇〇円、高校・大学生 五〇〇円、
小・中学生 二六〇円

《お問い合わせ》

山梨県立博物館 〇五五―二六一―二六三一



「登りたいのは、やまやま」

早川 剛裕

山頂に深紅の火がともる。やおら岩壁が赤々と燃え始める。北岳が朝日に目覚めていく。甲斐駒ヶ岳も、地蔵岳の“オベリスク”も紅に染まっている。薬師岳の彼方には、雲海から高くそびえる富士山がある。観音岳から眺める朝のパノラマは壮観だ。静から動へ、陰から陽へと移ろう朝の山々。この胸打つ一瞬を求めて、山に登る。

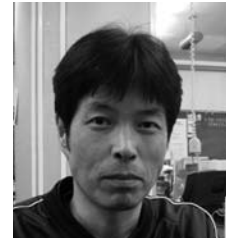
不意に出くわすブナの巨木。ツガの原生林に漂う特有のほのかな香り。高山植物が繚乱している“お花畑”。3千メートルの稜線歩きは、風音さえも爽やかだ。雷鳥の親子にほのぼのする。頭上の空は透徹として碧い。沸き立つ雲が躍動する。夜の山、見上げる星空は壮絶だ。天空横切る夏の“天の川”はことさら圧巻だ。雄大な“自然”と懸命に生きる“命”とが、共存する山は、かくも素晴らしい。

出会った景色をカメラに収めて持ち帰る。写真（最近、父から褒められるようになってきたことが嬉しい）を見ては登山を反芻する。「また行こう」、「行かねばなるまい」。山への思いが増幅される。

そして今年もまた、「山が呼んでいる」、「生きるために登るのだ」などと言い、家族や周囲を顧みず、結局山に登るだろう。いや、是非とも、登らせてください……。

白根高校教諭

らくがき



「いつでも待ってるよ!!」

伊藤 太一

毎月第2土曜日は、障害者フライングディスク教室の日です。「フライングディスク」というのはいわゆる「フリスビー」のことです。障害を問わず、個々のレベルに応じて楽しめる生涯スポーツでもあります。県立かえで支援学校をお借りして続けているこの教室も、今年で7年目になりました。当初は参加者もなく、私達指導者だけで行っていました。その後、かえで支援学校の生徒が少しずつ参加するようになり、現在では他の支援学校、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒、またそれらを卒業した方々など毎回30名程の方に参加していただけるようになりました。

この教室も、これまで一度だけ雪のために中止したことがあります。「絶対教室があるから…」と大雪のなか、会場に来ていただいた方がいたのに…。パニックになってしまい大変だったと後から施設職員の方に伺いました。それ以降、どんな天候でも必ず教室を開いています。クラブ活動と違い、参加しなければならぬということはありません。でも、いつ行っても誰でも受け入れてくれるという場所を提供するために、今後も第2土曜日は必ず教室を開いていこうと思います。

甲府支援学校教諭

— 県立文学館 平成20年度春の企画展 —

芥川龍之介の手紙 敬愛する友 恒藤恭へ

会期 平成20年4月26日（土）～6月22日（日）



一高時代の芥川〔左〕と恒藤（井川）
1912（大正元）年12月

文学館では、芥川龍之介が友人の恒藤恭（つねとう きょう）に宛てて書いた手紙を中心に、その若き日の苦悩と、終生変わることのなかった二人の友情の軌跡を展示、紹介します。

芥川は1910（明治43）年に旧制第一高等学校に入学、そこで生涯にわたって敬愛する友人恒藤恭と出逢いました。恒藤恭（旧姓井川）は島根県松江市出身。早くから文学に目覚め、「万朝報」・「都新聞」等に小説や随筆を発表していました。しかし、芥川の文学的才能に触れたことで自らの限界を知り、京都帝国大学法科大学に進学します。芥川は東京帝国大学に進学しますが、その後も二人の親交は続き、芥川は恒藤に宛てて多くの書簡を残しています。本展では、それら書簡のほか、一高での学生生活の様子を記した恒藤の「向陵記」ノート、若き日の芥川を描いたデッサンなどを展示。豊かな才能を持った二人の青春時代を振り返りながら、一高卒業後の交友、そして、文学者と法学者というそれぞれの道で活躍した二人の足跡を辿ります。

「個性豊かな民主的实践人」

～ 自らの善さを発揮して 誰とでも仲良く 行動できるひと ～

甲府市立北中学校

本校は甲府市の北西部に位置し、現在338名の明るく素直で自主性に富んだ生徒が、勉学や部活動に励み、充実した学校生活を送っています。

本校の学校教育目標は、「個性豊かな民主的实践人」です。教育活動の基本として「自然や人とのふれあいを通し、心を育てる」を掲げ、「自分の持っている善さを出し合い、みんなと仲良く行動できる人になろう」と投げかけ、心と心のふれあいを深めることに力を入れ実践しています。

「総合的な学習の時間」では、体験的な活動を重視し、学校林活動や職場体験学習、施設訪問などを実施しています。特に、心の教育については、学友会（生徒会）を中心とした「あいさつ運動」に力を入れています。

伝統的な活動としては、昭和48年度より始まった「朝の体力づくり」を継続しており、毎週火・木曜日の朝20分間、北中体操と縄跳び・マラソンを行っています。

昭和52年にはこの活動が評価され、文部省及び学校体育連合会より表彰を受けています。今後、単に体力づくりの場だけではなく、自主活動の場、生徒指導の場、集団訓練の場としてさらに充実させ、継続指導をしていきたいと考えております。

学校と家庭、地域との連携を深めるため学習参観日を設けるとともに、地域の人々を指導者に招いた学習活動や、地域をフィールドとした体験学習を行い、開かれた学校づくりを目指して、日々実践をしているところです。



朝の体力づくり(縄跳び)



朝の体力づくり(マラソン)



学校林活動

「進路実現」と「人づくり」

～ 10年後、20年後の将来を見据えて ～

県立日川高等学校

毎年4月、教室の窓一面に「桃花の絨毯」が広がります。創立から106周年、日川高校に学んだ多くの生徒が目にしてきた風景です。

校訓に「質実剛毅」、教育方針に「文武両道」を掲げる本校は、平成11年度に単位制高校に改編され、「進路実現」と「人づくり」を柱とした教育活動を行っています。

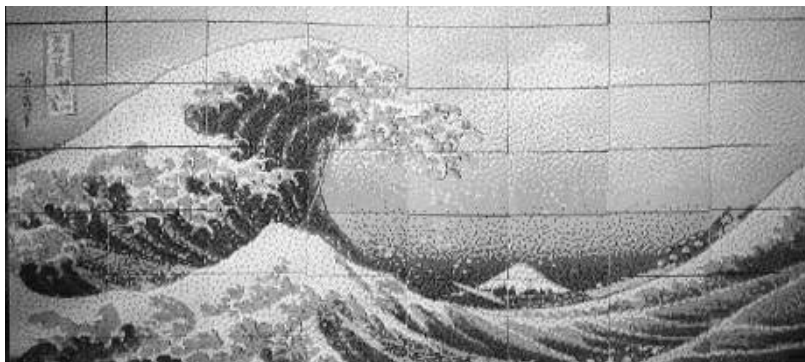
「進路実現」の基本となるのは45分×7校時の授業と、部活動を休止して行われる月曜日の「ふれあい創造の日」、土曜日午前中の「サタデーサプリ」です。これらを通じて質の高い学習内容と雰囲気確保しています。

また「人づくり」の基本として、あいさつを始めとする日常生活の様々な礼儀を大切に、教師と生徒が人の温かさを共有しています。本校にはラグビー部やウエイトリフティング部をはじめとして県外に名を馳せる部が数多くありますが、強さの秘訣は、心の通った日々の活動にあると言えます。

日川高校の教育は、生徒一人一人の「10年後、20年後の人生」を見据えた自己形成の機会を提供しています。4月が来ると、窓の外の桃花に覚える純粋な感動は、本校で送る高校生活が充実していることを反映しています。



800人余の生徒が集う校舎の全景



切紙の全校制作「富岳三十六景」(神奈川沖波裏)

特別支援教育の推進と充実に向けて

— 山梨県総合教育センター 特別支援教育部 —

■ 特別支援教育への転換

学校教育法等の一部が改正され、平成十九年四月一日から特別支援教育が本格実施され、障害のある子どもの教育制度は、「特殊教育」から「特別支援教育」へと転換されました。これにより、特別支援教育は、全ての学校において実施され、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくことになりました。

また、特別支援学校では、障害のある子どもの教育的支援においてセンター的機能を発揮することが期待されています。

■ 特別支援教育部による支援

調査研究、研修、教育相談、情報の収集及び啓発、「特別支援教育体制推進事業」等の業務を通して特別支援教育推進の支援を行っています。

一 調査研究による情報提供

特別支援教育コーディネーター（以下「コーディネーター」）が、障害のある幼児児童生徒の教育のために、より機能を発揮することを目的に「コーディネーターハンドブック」（基礎編・実践編・資料編）を新しい学校づくり推進室と共同で作成しました。特別支援教育の支援体制充実に向けて県下の各学校での活用を期待しています。

二 平成二十年度センター研修会

①管理職等の基本研修、発達障害の理解や指導、心理検査法、障害児の心のケア、医療的ケア等、十五研修を企画・実施します。

②特別支援教育では、各学校で校内支援体制の中核的な役割を担うコーディネーターの資質向上が求められています。本センターでは、「コーディネーター養成」と「ステップアップ」研修を企画しています。「ステップアップ」は実務経験者を対象にスキルアップを図る内容です。

③各学校の校内研修会等へ訪問要請により、研修主事を派遣し学校支援を行います。

三 教育相談

①教育相談（来所、電話、訪問）、発達に関する検査等を実施し、就学、入級、転学、進学等について、幼児児童生徒や保護者等への支援をします。

②特別支援教育体制推進事業でLD等巡回相談チームによる巡回相談の事務局を担当し、学校訪問等で支援します。

③市町村教育委員会と連携し、県内九地区十六会場場で障害児巡回教育相談を行い、就学事務の説明や研修などを通してよりよい就学等の支援をします。

四 各分野の専門機関との連携

発達障害者支援センター、子どもメンタルクリニック、児童相談所等の相談機関と連携し支援します。

五 特別支援学校のコーディネーター資質向上事業

ケース検討等の研修を通して地域支援の中核を担う特別支援学校のコーディネーターの資質向上を支援します。



(研修会風景)

レファレンスの道工具箱 テーマ別調べ方ガイド

山梨県立図書館

◇山梨の特産品について調べる◇

☆概要を調べる

◎まずは、山梨県の特産品や地場産業についての概観を調べてみましょう。

『甲斐路ふるさとの特産』ふるさと自慢シリーズⅡ（山梨日日新聞社 1983年）
1982（昭和57）年に選定された「ふるさとの特産」65点を紹介しています。はじまりや特徴、製品ができるまで等詳しく解説されています。

『山梨100選』（山梨日日新聞社出版部 2005年）

2001（平成3）年1月に選定された100選に自然や名所と共に特産品が収録されています。生産に携わる人々のエピソードも掲載されています。

『山梨の観光あんない』（山梨県大型観光キャンペーン推進協議会 1999年）

伝統工芸品や民芸品・名産品・特産品の一覧が掲載されています。照会先や交通アクセスについての案内も載っています。

山梨なるほど地場産見聞録 (<http://www.kaiterasu.jp/kenbun/index2.html>)

それぞれの産業について解説、企業数、従業員数、全国シェア、関連サイトなどの情報が載っています。地場産業についてのクイズも掲載されています。



☆地域から調べる

◎その地域の市町村史誌を見てみましょう。「特産品」という項目以外にも「産業」「農業」「商工業」などにその地域の特産品についての記述があります。

※例) 『勝沼町誌』（勝沼町役場 1962年）→「第五編 勝沼町と葡萄の歴史」

◎各市町村の要覧や広報、Webサイトにも特産品が紹介されている場合があります。

※例) 身延町役場 (<http://www.town.minobu.lg.jp/>)

観光ガイドの「見どころみのふ」に特産品の解説と写真が掲載されています。

◎各市町村についてまとめられた資料には、特産品に触れている場合があります。

『ふるさといちかわ』（市川中学校PTA 1987年）

旧市川大門町についてまとめられ、和紙や花火について載っています。

『水と緑の風景』（竜王町教育委員会 1990年）

旧竜王町のかつての特産品や現在までの変遷が解説されています。

☆こんなツールも使えます

◎お土産ならば特産品が最適です。そこで観光に関するガイドブックやパンフレット類・Webサイトなども活用できます。

『マップルマガジン山梨甲府』（昭文社 2004年）

『やまなしの物産』パンフレット（山梨県観光物産連盟）

富士の国やまなし観光ネット

(<http://www.yamanashi-kankou.jp/index.html>)



〇〇「郷土の恵み 人の技」コーナーをご利用ください〇〇



郷土資料室では特産品に関する図書やパンフレットを集めたコーナーを設置しています。果樹やワインに代表される郷土の恵み、ジュエリーや和紙などの人の技の数々をご紹介します。

※今回紹介した資料以外にも関連資料がございます。ご利用ください。

山梨の文化財

県指定有形文化財（建造物）

旧外川家住宅（富士吉田市）

（平成二十年一月三十一日指定）

旧外川家住宅は、富士山に登拝する富士講信者の宿坊（御師住宅）として昭和三十年代まで利用されてきました。近年、建物の取り壊しが計画されたことから富士吉田市が購入して修理を行い、平成二十年度の一般公開を予定しています。

主屋は、棟札から明和五年（一七六八）に建てられたことが判明し、国指定重要文化財小佐野家住宅などの江戸末期の御師住宅よりも百年余り古い建物です。妻入形式の典型的な御師住宅で、柱が多く二重の梁を用いるなどの特徴があり、県内では数少ない江戸時代の住宅です。

離座敷は、大勢が宿泊できるように江戸末期に増築されました。釘隠に富士講の印が用いられており、富士講の支援により建てられたものと思われる。

タツミチ（通りからの進入路）、中門、ヤーナガワ（水路）、石碑などの屋敷構もよく残っており、富士信仰や御師住宅の歴史にとって極めて重要な建物です。



主な行事予定

県立美術館

特別展

「開館30周年記念 田園讃歌
近代絵画に見る自然と人間」
4/19～6/1

県立博物館

企画展

「木喰展 生誕290年
―庶民の信仰・微笑仏―」
4/5～5/6

考古博物館

企画展

「甲斐の前方後円墳」
4/26～6/29

県立文学館

企画展

「芥川龍之介の手紙 敬愛する友
恒藤恭へ」
4/26～6/22

表紙を飾る



作品タイトル

「ガイコツとあくしゅを…！」
入学して学校たんけんをした時に、理科室で、初めてガイコツを見ました。ぼくは、「わあ！これ本物？」と、思いました。「一度さわってみたいなあ」と、ずっと思っていたら、理科室で科学クラブの工作をすることになり、「やったあ、これでさわれるぞ！」と、ちょっと気持ち悪かったけれど、思い切ってさわってみました。

指導者 塚越はつみ 教諭

笛吹市立一宮南小学校
学年 4年
林 雅也

「声かけ あいさつ」 みんなで実践 !!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。
アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyouiku/46150769857.html